

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日： 令和6年 7月 9日

更新日：

政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐむまちの形成	施策主管課	文化財課
施策No.	27	施策名	歴史・伝統文化の振興	施策主管課長名	田中 大輔
施策関連課名					

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等		(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
A) 市民		A	人口	人
B) 文化財		B	指定・登録文化財、埋蔵文化財	件
		C		
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)		(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
		①	市内には、守り伝えるべき豊かな歴史があると感じる市民の割合	%
A) 歴史的文化資源や伝統文化を知り、活用する		②	ふるさと○○(まるまる)博物館のデータベースに登録された地域の歴史的文化資源の件数	件
B) 適切に保護・活用される		③	過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたりしたことがある市民の割合	%
		④		
成果指標設定の 考え方 (成果指標設定の理由)	①	歴史的文化資産への市民の気付きの状況を示す／市民が歴史的文化資産や伝統文化を知ること、守り伝えるべき豊かな歴史があると気付く市民が増えるので、成果指標とした。		
	②	歴史的文化資源の掘り起こし・保護・活用の状況を示す／歴史的文化資源を掘り起こし、データベース化することで、その資産が適切に保護され、市民がその資産を知り活用することができるようになるので、成果指標とした。		
	③	歴史的文化資産の活用の状況を示す／歴史的文化資産が適切に保護され、市民がその価値に気付けば、史跡を訪問するなど歴史文化に触れる機会が増えるので、成果指標とした。		
	④			
成果指標の 測定方法 (どのように 実績値を把握するか)	①	市民アンケート『市内には守り伝えるべき豊かな歴史があると感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合		
	②	地域の歴史的文化資源を掘り起こし、活用する取り組みである「ふるさと○○博物館」のデータベースに登録された地域の歴史的文化資産の件数		
	③	市民アンケート『過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたことがありますか』において「はい」と回答した人の割合		
	④			

2 指標等の推移

指標名				前期基本計画					後期基本計画				
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標	A	人口	人	見込み値				71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
				実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434	71,511
	B	指定・登録文化財、埋蔵文化財	件	見込み値				634	634	634	634	634	634
				実績値	633	633	635	638	639	639	639	640	641
成果指標				見込み値									
				実績値									
	①	市内には、守り伝えるべき豊かな歴史があると感じる市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	54.0	55.0	56.0	57.0	58.0
				実績値	-	-	-	52.8	58.5	52.4	55.6	55.4	53.0
	②	ふるさと○○(まるまる)博物館のデータベースに登録された地域の歴史的文化資源の件数	件	目標値	-	-	-	-	418	460	483	507	532
				実績値			72	309	423	660	792	890	970
	③	過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたりしたことがある市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	29.0	30.0	31.0	32.0	33.0
				実績値	-	-	-	27.8	23.8	23.0	22.4	20.7	24.3
				目標値									
				実績値									
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)													
① 地域の歴史的文化資産の保護と継承にはまず、市民がその存在と価値に気付くことが重要であるため、現状の数値から5年間で5%向上を目指し、令和6年度には58.0%とした。													
② 地域の歴史資源の悉皆調査を行いデータベースに登録する集中取り組み期間終了の令和3年度までは、毎年成り行き値より10%多い目標値とし、令和4年度以降は、成り行き値より5%多い目標値として、令和6年度には532件とした。													
③ 市民が歴史的文化資源の価値に気付くと、歴史文化に触れる機会が増えるので、現状の数値から5年間で5%向上を目指し、令和6年度には33.0%とした。													
④													

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
・ふるさとの歴史や文化財を知り、それを自らの資産、財産としてとらえ、主体的に守り伝え、活用していく。(市民・地域の役割) ・地域に根差した歴史的文化資源の掘り起こしを、行政と市民が協働で行い、行政が学術的、技術的側面をサポート、また国・県への橋渡しなどを行う。(協働)	・地域の歴史的文化資源を収集・保全するとともに、これらを調査し、市民に地域の歴史的な成り立ちや個性を知ってもらうため、その環境や機会を提供する。(市の役割) ・改正文化財保護法(平成30年6月)に定められた「文化財保護活用地域計画」等を策定し、地域の文化財の総合的な保存活用の方針を示すとともに、地域の文化財の把握のために必要な措置を講じていく。(市の役割) ・その他、市民や市が行う文化財の保護、活用に関わる活動を支援していく。(国・県の役割)

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・国全体の流れとして、文化財などの歴史的資産を積極的に活用し、まちづくりやインバウンド観光の資源として地域創生や地域経済の活性化に貢献する役割が期待されている。〔「文化財を活用した観光インバウンドのための環境整備(文化庁)』(ほか)。この動きは今後更に加速するものとみられる。 ・ユネスコエコパークの移行地域として、南アルプスの自然や風土の中で育まれた地域の歴史的な個性を「ふるさと○○博物館推進事業」などを通じて、公開し、振興に努めていくことが求められている。(市長公約) ・「無指定の文化財を含め、文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会が総がかりで、その継承に取り組んでいくことが重要」と国の文化審議会の答申を受け、文化財保護法の改正が行われている。(平成30年6月)。	・議会から・・・文化財や歴史的資源の掘り起こしや磨き上げを進め、土偶キャラ「子宝の女神ラヴィ」なども含めて観光や地域活性化、シニアースルに積極的に活用すべき、また、史跡巡りなどは重要なので今後も続けるべき、などの意見や要望が多数寄せられている。(一般・代表質問など) ・住民から・・・「史跡探索や伝統文化の体験活動の機会を増やしてほしい」「市の歴史の発信機会を充実してほしい」「(市民アンケート)」、「国指定史跡へ行っても仕組みや価値がわかりにくい」(市民・学校)などの意見が寄せられている。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数		16	16	16	16	15
(予算額の内訳)	関連事業予算額(単位:千円)	52,586	57,050	90,983	183,440	73,953
	国庫支出金	0	0	21,590	32,978	6,771
	県支出金	10,431	12,124	11,370	23,761	12,198
	地方債	0	0	0	57,700	0
	その他	21,000	23,400	23,450	24,251	32,807
	一般財源	21,155	21,526	34,573	44,750	22,177

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
☐ 目標より高い実績値だった ☐ どちらかといえば目標より高い実績値だった ☐ 目標どおりの実績値だった ☒ どちらかといえば目標より低い実績値だった ☐ 目標より低い実績値だった		令和5年度は、柴田家住宅土蔵(上野)が新たに登録有形文化財となり、安養寺の鼻探地蔵が県指定文化財となったほか、成果指標②「○博アーカイブの登録数」が970件を超え、年間アクセス数は67万件(前年比223%)となるなど、歴史的資源の掘り起こしと顕在化を継続的に行った。また、コロナ禍で停滞した教育普及事業の実施実績も回復し、県外観光業者に施設利用をアピールする営業活動も行った。一方で成果指標①「市内には守り伝えるべき豊かな歴史があると感じますか」、③「過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたことがありますか」は、目標達成度に比して横ばい傾向にあり、乖離がある。歴史的資源の保護、活用に関わる諸事業が、まだまだ市民の目に見えるものとはなっていない。やはり市民へのなお一層の働きかけが課題となり、コロナ禍の影響も薄まりつつある中、令和5年度に史跡櫛形堤防の整備、安藤家住宅の駐車場拡充とトイレの設置といった環境整備が行われていることから、これを基盤として施策のさらなる推進が求められる。
	(2)時系列比較(どのように変化してきたか)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
	☐ 成果がかなり向上した ☒ 成果がどちらかといえば向上した ☐ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した ☐ 成果がかなり低下した	「ふるさと○○博物館推進事業」の推進や「ふるさと文化伝承館」、「重要文化財安藤家住宅」等において、市として積極的に文化財活用事業を展開し、地域資源の掘り起こしを行い、その保護、普及、活用に努めている。成果指標②「○博アーカイブの登録数」が970件を超え、年間アクセス数は67万件(前年比223%)となっているほか、成果目標③「過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたりしたことがある市民の割合」は20.7から24.3%と約4ポイント増加している。安藤家住宅の入館者は、駐車場工事の影響もあって前年度比93%と微減だが、コロナ禍前のイベントスケジュールを取り戻しつつあり、伝承館の入館者は過去最高の9,411人(前年比126%)、教育普及事業の実施数、のべ参加者もそれぞれ前年比120%、117%増となっており、新型コロナの影響が少なくなる中、これらが反映されている可能性がある。一方で、成果指標①「市内には守り伝えるべき豊かな歴史があると感じますか」割合は、横ばいであった。この面では、まだまだ、施策の活動量が足りていない。
	(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
	☐ かなり高い成果水準である ☒ どちらかといえば高い成果水準である ☐ ほぼ同水準である ☐ どちらかといえば低い成果水準である ☐ かなり低い成果水準である	教育普及事業等、小中学校等における取り組みについては、全県的なアンケート等はないため、他団体と比較する数値はないが、文化庁などからの聴取では、本市の取り組みは、全国有数の水準にあるとされている。また、ふるさと○○博物館推進事業など、本市独自取り組みについては、国の機関や、県外自治体から視察や講演依頼等がある。一方で本市は、これまで国指定史跡を有する県内の市で、唯一史跡の整備事業に着手していない自治体であったが、令和5年度に国史跡「御勅使川旧堤防」のうち櫛形堤防の整備が完了し、市内の人々が、本市の史跡や文化財に気軽に触れ、安全に体感できるような環境づくりに一歩踏み出すことができた。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
南アルプスの自然や風土に向き合い、これに関わる中ではぐくまれた地域の歴史的な文化資源や伝統文化の魅力を明らかにするとともに、適正に保存し、継承に努め、広く情報を公開し、その活用に向け取り組む。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R6年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R7年度)の方針

基本事業		今年度(R6)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R7)の方針
1	歴史的な文化資源や伝統文化の保存と継承	市内に把握されている歴史的資源について、市民やその管理者などと協力しながら、その本質的価値の保全に努めていく。また、ふるさと○○博物館事業の継続により、新たな資源の発見、掘り起こしについても継続的に実施していく。	文化財の所有者・管理者と協働で、その保護を図るとともに、保存すべき歴史的資源を掘り起こして顕在化し、保全を図りつつデジタルアーカイブ等を通じて公開していく。なお、重要文化財としての価値の維持のため、安藤家住宅の保存修理についても検討していく時期に来ている。
2	歴史的な文化資源や伝統文化の公開と活用	多角的事業の実施等により、安藤家住宅のさらなる活用に注力するとともに、整備検討委員会により櫛形堤防の活用向上も議論していく。今後とも市域に多様な歴史的資源があることに気づき、自らの資産として保護し活用しようとする市民の意識、関心を高める必要がある。また、史跡や文化財に気軽に触れ、安全に体感できるような環境面の整備も推進していく必要がある。	市民の意識を高めるため、施策を粘り強く継続していく。また、市民が、歴史的資源に気軽に触れ、体験し、価値を感じてもらえるよう史跡や文化財施設の活用と、その環境整備についても検討していく。
3			
4			